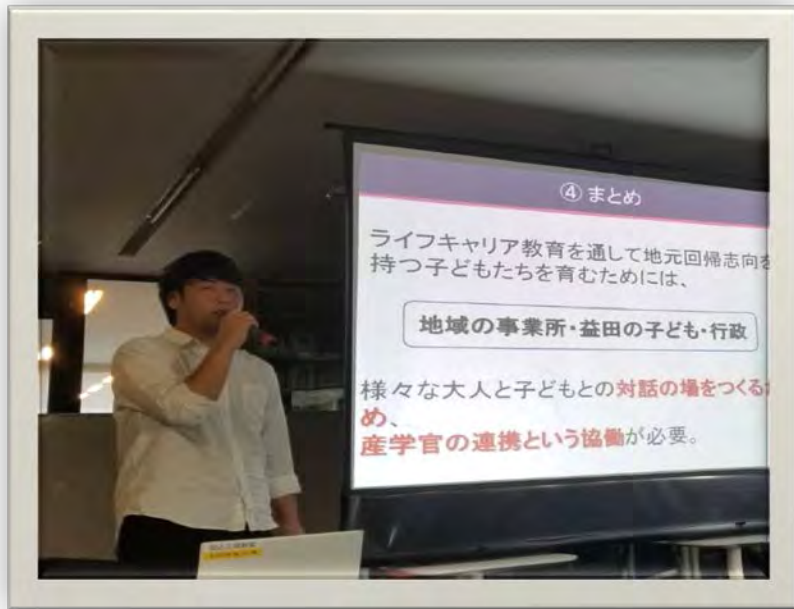


自己紹介

出身地：茨城県桜川市

地域の魅力を発信する
アンテナショップを運営



【関心領域】

- ・教育支援
- ・地域におけるキャリア教育

島根県益田市とは

山口県と接する島根県の西部に位置

北は日本海、南は中国山地を臨む自然豊かな地域

人口：約46000人

合計特殊出生率1.80を実現
全国でも高い水準



島根県益田市とは

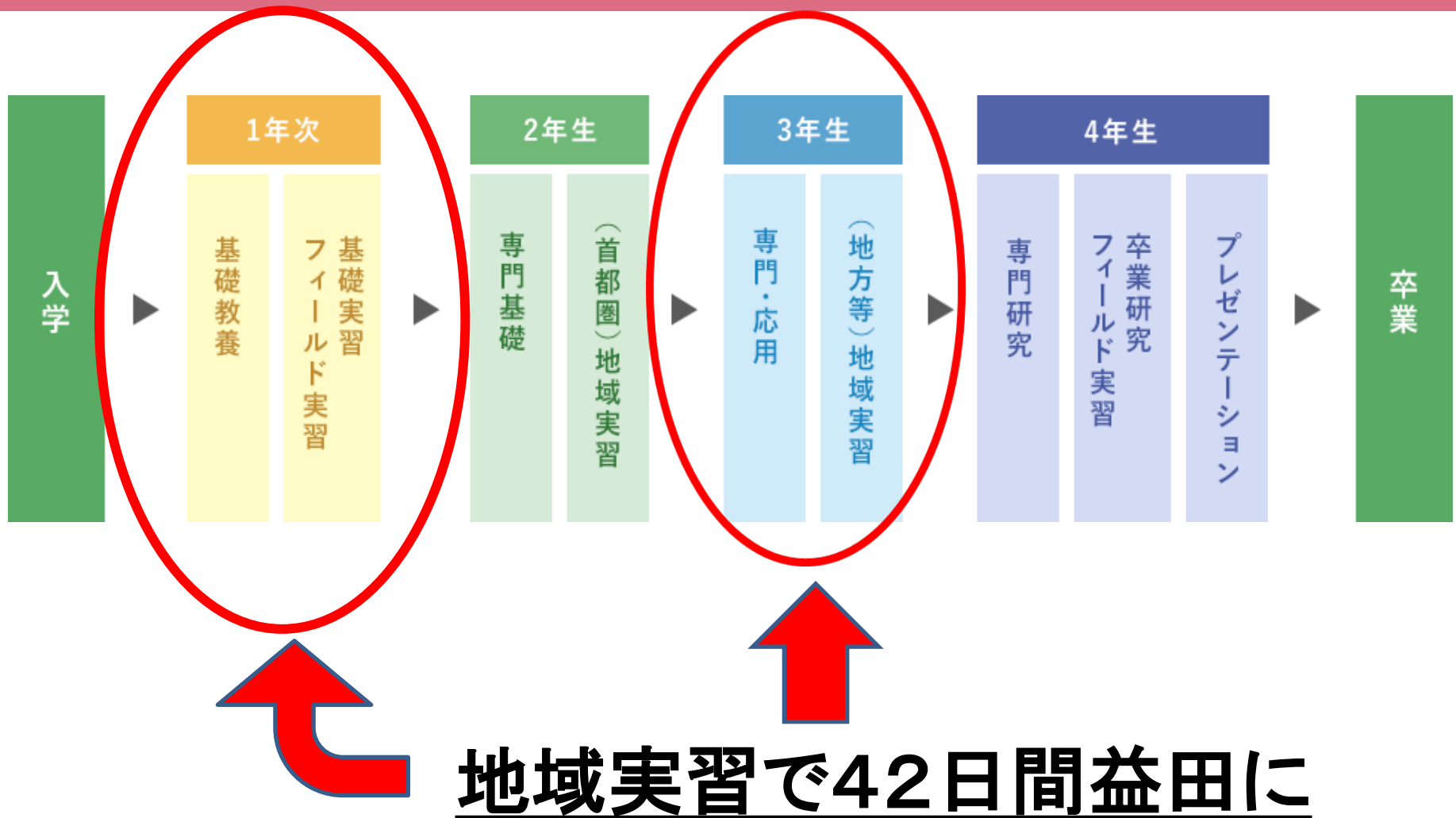
【益田の主な産業について】



島根県益田市とは



大正大学における地域実習とは



目次

- ①夏の短期プログラム
- ②秋の長期プログラム(地域実習)
- ③春の短期プログラム
- ④終わりに

①夏の短期プログラム

【実施期間】

平成30年8月20日～8月24日



【テーマ】

益田の魅力をより高めるには

【目的】

秋の長期プログラムに必要な
知識の修得とテーマの課題調査

①夏の短期プログラム

【活動スケジュール】

日程	活動内容	指導	会場
8月20日	・益田市の政策説明（総合・ひとづくり）	益田市役所 大正大学地域構想研究所	益田市役所
8月21日	・益田商工会議所との懇談 ・益田市の政策説明（産業・農林水産・観光）	益田市役所 益田商工会議所	益田商工会議所 益田市役所
8月22日	・益田市特産品協会 ・市内視察	益田市役所 益田市特産品協会 大正大学地域構想研究所	益田市役所 市内
8月23日	・道の駅、産業支援センター、真砂とうふ ・市、人口拡大課・社会教育課	益田市役所 (合)真砂	益田市役所
8月24日	・報告会	益田市役所 益田商工会議所 大正大学地域構想研究所	益田市役所

②秋の長期プログラム（地域実習）

【実施期間】

平成30年9月10日～11月6日



↑ 益田市役所

【テーマ】

地域の魅力と力を知る対流

【目的】

1年：益田市の地域資源の発掘・調査

3年：各自の専門領域に沿った個人研究

②秋の長期プログラム(地域実習)

—島根大学での学び—



【履修科目】

島根の企業と経済 2単位

履修者：大正大学 13名 島根大学 26名

島大ミュージアム学 2単位

履修者：大正大学 13名 島根大学 301名

地域未来論 2単位

履修者：大正大学 13名 島根大学 74名

②秋の長期プログラム（地域実習）



【益田における実習テーマ】

新・職場体験の効果検証とその詳細な分析

【仮説】

益田市が行っている新・職場体験は中学生にどのような効果をもたらしているのか？

【目的】

新職場体験に参加する中学生の意識変容を明らかにする

②秋の長期プログラム(地域実習)

行政との連携

① アンケートの作成

お互いに意見交換を繰り返し
アンケートの共同作成を行った

② アンケート先の
選抜

調査先の学校を選ぶ際には
情報の提供やアドバイスをいただいた

③ アンケートの実施

調査先の学校へアンケートを実施する際は
日程調整や実施・回収作業を共同
して行った

④ アンケートの分析

分析については**共同作業**で行った

②秋の長期プログラム(地域実習)

【島根大学とのかかわり】



②秋の長期プログラム（地域実習）

	対話があったと感じた	対話がないと感じた
新職場体験において大人と働き方への 思いや生きがいなどの対話がありましたか??	143人	25人
新職場体験の満足度は何点ですか?	84.9点	61.2点
新職場体験を通して働くことに対するイメージが良くなった	93%	60%
新職場体験を通して自分は成長することができた	91%	72%
今回行った事業所の魅力度は何点ですか?	85.6点	65.2点
益田のことがすきだ	83%	48%
益田市は魅力的なまちだと思う	75%	32%
益田市に魅力的な職業があった場合、 益田市に住みたい	73%	59%
一度は外にでたとしても、将来は益田で暮らしたい	49%	32%



中学生にとって、益田の大人から働き方への思いや生きがいについての「対話」があったと感じるか感じないか
地元回帰志向の数値に大きな影響がある

ライフキャリア教育を通して地元回帰志向を持つ子どもたちを育むためには、

地域の事業所・益田の子ども・行政

様々な大人と子どもとの対話の場をつくるため、
産学官の連携という協働が必要。

②秋の長期プログラム（地域実習）

【益田で学んだこと】



- ・益田市教育委員会社会教育課という環境
- ・ライフキャリア教育の可能性
- ・実習が終わったあとのつながり

行政とお互いの目的を共有し、
連携することの重要性

②秋の長期プログラム（地域実習）

【益田なかで学んだこと】



- ・対話が日常となるような環境
- ・益田市の政策に対する姿勢
- ・今後、新しいアクションが生まれる可能性

「人づくりのまち」としての発展性の高さ

③春の短期プログラム

【実施期間】

平成31年2月12日～2月15日

【仮説】

益田市に様々な属性の「ひと」が訪れる
ような新しい拠点を創出できないか

【目的】

市外から来る大学生や研究機関が
地元高校生や地元住民と交流できるような
新しい拠点地の検討

③春の短期プログラム

【調査の流れ】

益田市に人が集約する拠点を作ることに對して
現地にはどのようなニーズがあるのか??



益田市の新たなシンボルとなるような
まちづくりの拠点の可能性について
現地のニーズを基に調査する。

③春の短期プログラム

【調査方法】

- ・ヒアリング時間 40分(一人あたり)
- ・対話形式で聞き取り調査
- ・行政の方々と協議の上、アポ取りを行った。



③春の短期プログラム

ひとが育つまち益田 ~ひとづくりの環~



③春の短期プログラム

【ヒアリング項目について】

- 1、ひとが交流し、集積させるためにはどのような場所が適切だと思いますか？
- 2、自身の立場として、新しい拠点に対してどのような機能を求めますか？？
- 3、新たな拠点をもって、外部の研究機関や大学生などが益田の中高生と交流をもつことの必要性

③春の短期プログラム

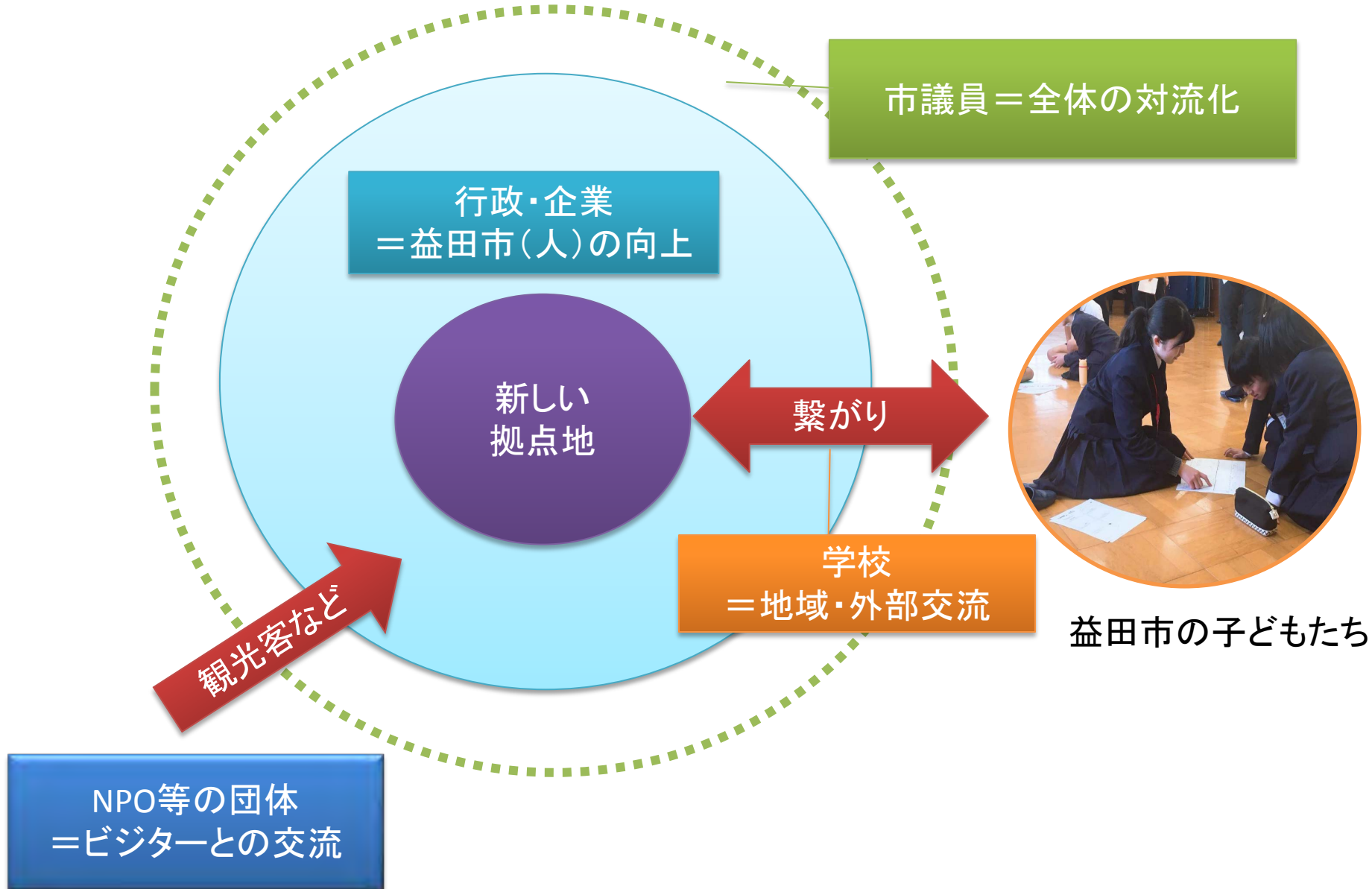
【ヒアリング項目について】

- ・益田で活躍する人を創出する人材育成
- ・市民がアクセスしやすい場所
- ・専門家や調査団を宿泊させる施設
- ・益田版ラーニングコモンズ
- ・益田市の企業が社員育成に活用できる場
- ・起業家支援のコワーキングスペース



現在使われていない施設を再活用し、
新しい拠点づくりを行うという可能性について

③春の短期プログラム（拠点地との関係性）



③春の短期プログラム

【分析】

行政・企業

高校性のアントレプレナー養成の促進ができるような機能
起業支援やコワーキングスペースを通じた世代間交流

市議員

大学のサテライトキャンパス リカレント教育の推進
まちづくり会社の創業 DMO化 中高生の将来設計の場

学校・NPO

子どもたちや地域住民に向けてのアピールする場
地域の人たちと関われるような交流スペース
自主学習スペース

③春の短期プログラム

【結果】

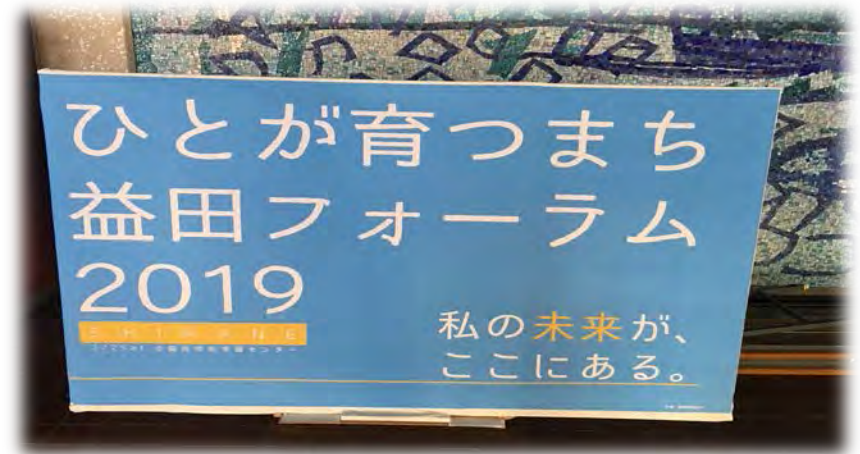
実現化のためには、それぞれの属性によって求める拠点像が違う

拠点の実現化を目指すには、**求める機能を集約し、機能別に役割を分担する必要がある**

④春の短期プログラム

【ひとづくりフォーラムへの参加】

平成31年 3月1日～3日



④終わりに

【益田での生活を通して】

- 初対面でも、気軽にコミュニケーション
- ゆったりとした生活スピード
- 益田人として受け入れてくれる環境

「住むのに不便」という感覚は一切ない

④終わりに

【今後の大正大学と益田市のつながり】

益田市にどのような貢献の形が適切か

今後、益田市へ地域実習として
大学生が調査活動を行う。

➡ 絶えず、大学生を対流させる仕組み

大正大学の学生が対流機会の創出のきっかけ

④終わりに

【今後の研究】

卒業研究テーマ



「地域におけるキャリア教育」

- 社会教育課との情報共有（詳細を詰める）
- 追加調査の分析を行う。
- 将来は大学の職員として益田と東京をつなぎ、マネジメントをしていきたい。

ご清聴ありがとうございました

